

鳥獣被害を増やしていませんか？

鳥獣被害が増えるのは、餌付けなど被害を増やすような状況が集落内に放置されていたり、人慣れを助長しているなど当事者として自覚が弱いからです。集落の現状をみんなで確認してみましょう。

1 餌付けしていませんか？

被害が起きるのは集落内に「エサがある」からです。しかも、当事者としての自覚がないまま、下の図のような「餌付けをしている」実態があるからです。こうしたエサを無くすのが、獣害対策の第一歩です。

2 人慣れさせていませんか？

鳥獣のエサとなるものが集落内に放置され、しかも追い払いもしなければ、結果としてエサを準備したり、人慣れさせたりして餌付けをしたのと同じこととなります。



たまたま集落に行ったが、危ない目に遭わずにエサが食べられた。もう一度行ったが、再度危ない目に遭わずにエサが食べられた。

「ここはいつ行ってもエサを食べられる場所」と学習します。

～集落の餌付け・人慣れ度チェックリスト～

【餌付け度】

- ゴミ捨て場に生ゴミが散らかっている。
- お墓のお供え物を回収していない。
- 9月以降に草刈りをして、1月から2月にかけて、青草が繁茂している。
- 収穫しないままの果実(ビワ、スモモ、クリ、カキ、ミカンなど)を放置している。
- 野菜くずや生ゴミなどを田んぼや畑に放置する。
- 収穫後の田んぼに落穂や2番穂を残している。
- 放置した竹林でタケノコが未収穫のままである。

→ひとつでも該当項目があれば、鳥獣に狙われやすい「エサ場」です。

【人慣れ度】

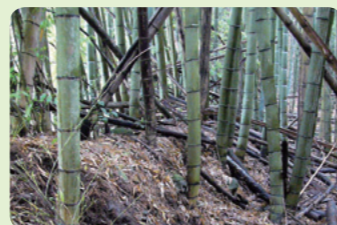
- 耕作放棄地を放置し、雑草が繁茂している。
- 見通しの悪い雑木林や放棄竹林がある。
- 柵(金網柵やトタン柵など)の周りに雑草が茂っている。
- サルを見かけても誰も追い払わない。

→ひとつでも該当項目があれば、鳥獣が住みやすい「すみか」です。



稲刈り後の雑草や2番穂

放置した竹林のタケノコ



ゴミ捨て場の生ゴミ



植えたまま未収穫の果樹



お供え物



放置された野菜くずや収穫物



3 人間本位に考えていませんか？

人間本位の考えは動物には通用しません。動物はそんな人間の考えを敏感に感じ取って行動します。

人間はこう考える

ハンターなどの専門家に任せれば安心

耕作する農地さえ守れば大丈夫

柵を設置すれば大丈夫

動物の気持ちになれば…

「住民は見ているだけ。追い払いしてこないから全然怖くない！」とっています。ハンター任せにせず、住民も当事者になりましょう。

「人が管理していない農地であれば怒られないから大丈夫！」とっています。耕作放棄地も監視し、草刈りをしたり、追い払ったりしましょう。

「柵は、一度突破できたら楽勝だ！」とっています。常に柵を点検し、突破されたら柵の外側に網を張ったりして工夫しながら防ぎましょう。